安平町　「こどもにやさしいまちづくり」プロジェクト

安平町をとりまく背景

総合計画	「暮らしやすいまち」 ▶	「暮らし続けるまち」 「子育て世代に選ばれるまち」
成果	子育て世代の移住者増△	・町内幼児教育の充実 ・あびら教育プランの推進 ・早来学園の開校
課題	さらに「まち」を活性化し、 「暮らし続けるまち」へ移行する必要	

設置理由

教育行政の分野領域を超えた取り組み

歪な現状
早来地区への移住集中
追分地区の人口減少

外的要因
ラピダスの進出
外国籍移住者の増加

待ったなしの現状打破のためには、機動的・集中的に取り組む必要がある
「安平町教育委員会プロジェクト・チーム設置等に関する規程」を制定
▸教育長直下の「プロジェクトチーム」が設置

プロジェクトチーム

・LPMをプロジェクトのチームリーダーとした組織
・地域側のCFCIラインと学校側のCREラインの2系統
・教育指導グループが行政として両ラインを横断的にサポート
・教育委員会配属の地域おこし協力隊はすべてチームに配属
・外部協力メンバーと連携協働を進める

メンバー
①地域プロジェクトマネージャー
②地域おこし協力隊　（教育委員会配属）
③任期付き職員（教育委員会配置）
④行政職員
⑤外部協力メンバー

※CRE Child Rights Education (CRE)
子どもの権利を大切にする教育

プロジェクトの目的

◎子育て・教育を核とした地域活性化
子育て・教育分野で、地域や自身の課題・困難に対し、他者と協働し自らの選択と行動で道を切り拓く大人を増やす。

◎あびら教育プランをきっかけとした「社会に開かれた教育課程」と「生涯学習社会」の実現
学校や地域において、子どもや大人が自分の所属するコミュニティや自身の課題・困難に対し、他者と協働し自らの選択と行動によって道を切り拓く経験をする機会をつくる。

＜課題解決の方向性＞
自らの選択と行動で道を切り拓く大人を支援

安平町で挑戦する大人たち

▸その姿を子どもたちが見る
▸学校や地域で子どもたちが同様の経験を積む機会を提供
▸こどもと大人、学校と地域がつながり、まち全体が活性化

安平町で育つ子どもたち

ＣＦＣＩ※の理念を基盤に

※Child Friendly Cities Initiative＝「子どもにやさしいまちづくり事業」のこと。
子どもにもやさしいまちでは、子どもたちがまちの活動に活発に参加し、彼らの声や意見が考慮され、まちの決定や手続きに反映されることが重要と位置づけています。安平町は「子どもにやさしいまちづくり」を「子どもがあたり前に意見できるまちづくり」、「子どもたちが安心して遊べるまちづくり」と捉え、子どもたちが主人公のまちを目指していきます。

業務範囲（スコープ）

プロジェクトの範囲

▸生涯学習計画に記載されている分野および領域に関わるもの

▸上記に関わる各課の個別計画等に関するもの（連携協働）

※他課との連携協働はプロジェクトの目的として合致する場合

※プロジェクトチームは下記の地域学校協働本部を軌道に乗せる主体も担う。

目標

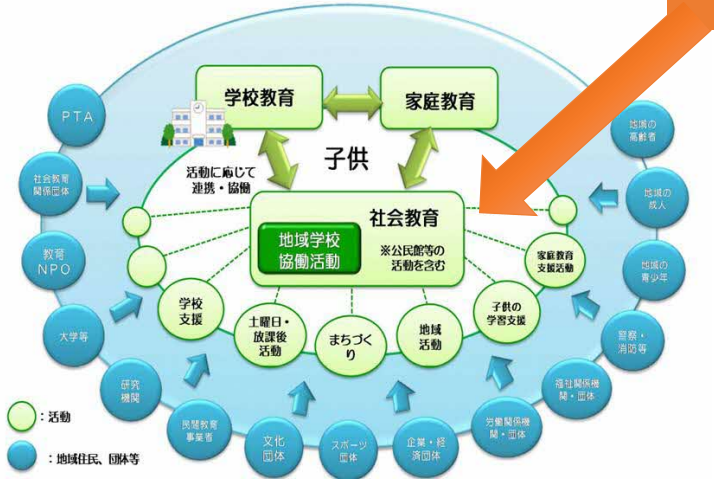
①学校運営協議会の活性化
②地域学校協働本部の運営と活性化
③町立学校の魅力化
④CFCIの普及と実践
⑤社会課題解決へ向けた民間活力および住民主体による取り組み
⑥産前産後および幼年期の子育て環境の充実

目指す成果（アウトカム）

『子どもが育つまち』の実現
◎暮らしやすいまち、暮らし続けるまちを主体的につくる大人が増え、**市民活動が活性化**する。
◎公教育の魅力が高まり、町全体的に**子育て世代の移住と出生数が増える**。
◎公教育が充実し、多世代にわたって自分らしく生きる町民が増え、**福祉ニーズが減少**する。
※公教育＝学校教育、社会教育、子育て

業務推進体制

・地域・行政・民間（専門家含む）に、さらに 学校・こども園を加えることで、子育て・教育全般にわたって取り組めるようにする。
・学校を設置する行政、学校を支える地域、各領域で事業推進力を持つ民間、が参画し、チャレンジし合い、支え合う水平方向の体制で推進する。
・地域プロジェクトチームを中心に地域おこし協力隊をプレイヤーとした「プロジェクトチーム」が右図の連携協働体制のもと、本プロジェクトを推進していく。

地域学校協働活動の概念図

より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成。